奇傑ゾロ (1920)

THE MARK OF ZORRO

メディア 映画

ジャンル アクション アドベンチャー

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 80分

初公開日 1921/11

公開情報 劇場公開

【解説】

『地下鉄サム』等で知られるJ・マッカリーの『カピストラノの呪い』（邦題『快傑ゾロ』）をフェアバンクス自身が脚色、F・ニブロが監督にあたった痛快無比の冒険アクション。後のタイロン・パワーやアラン・ドロンの主演のリメイクでもお馴染みだろう。19世紀初頭、まだスペイン領だったカリフォルニアが舞台。ロスアンゼルス市長の息子ドン・ディエゴ・ヴェガがマドリッド選挙を終え、父母のもとに帰ると、父はラモン大尉の奸計に落ちて地位を奪われ、人々は知事アルヴァラドの執政におののいていた。父は我が子の軟派な伊達男ぶりに落胆するが、実は、やがてこの町を騒がす黒頭巾の義士、現われた場所に必ず“Z”の文字を剣で刻む“怪盗ゾロ”はドン・ディエゴその人だったのだ。当地の名門ドン・カルロス・プリート家に招かれた彼は、愛娘ロリータに恋するが、彼女は柔弱を装う青年に至極冷たい。その恋するはゾロ。それを知ってか余計、キザったらしく彼女の前で振舞うドン・ディエゴ（ここらは全くツボを心得た展開だ）。神出鬼没のゾロを捕まえようと躍起になるラモン一派はある夜、遂に彼をヴェガ邸に追い込むが、“自分の家”に帰っただけのゾロは、さっとディエゴに変身。今起きたばかりのような顔で出てきて、連中を煙に巻く。しかし、ロリータへの大尉の強引な求愛を見咎めたディエゴは、いよいよ達人ラモンの前で剣を抜き、その額に軽く傷つける。手をやったラモンの掌に写る“Z”の血文字……。後は説明なくともお分かりの大乱闘から大団円。歯切れよい演出に、何よりダグラスの素晴らしい肉体表現を満喫できる、澆刺たる大活劇だ。

【クレジット】

監督	フレッド・ニブロ	Fred Niblo
原作	ジョンストン・マッカレー	Johnston McCulley
脚本	ユージン・ムリン	
脚色	ダグラス・フェアバンクス	Douglas Fairbanks
撮影	ウィリアム・マクガン ハリー・スローブ	William McGann
出演	ダグラス・フェアバンクス	Douglas Fairbanks
	マーガレット・ド・ラ・モット	Marguerite De La Motte
	ノア・ビアリー	Noah Beery
	ロバート・マッキム	Robert McKim
	ミルトン・バール	Milton Berle